

ほむ・ほむ通信

No. **35**

ユニセフ 緊急支援の報告

2005 年度～2006 年度に取り組まれたユニセフの緊急・復興募金。その活動成果をご報告します。
組合員の皆様へのご報告にぜひご活用ください。

ジャワ島地震緊急募金



ユニセフと現地実施パートナーの支援で、2 万箇所以上の井戸や 1 万 3,000 箇所のトイレが使えるようになりました。

©UNICEF/Indonesia

2006 年 5 月 28 日にインドネシア・ジャワ島で発生した地震によって、5,000 人以上の人が亡くなりました。ユニセフは、北スマトラ州の州都メダンに備蓄していた緊急支援物資を直ちに配布、水と衛生、保健、教育、子どもの保護などの分野で緊急・復興支援をおこないました。

ユニセフが配布した主な緊急支援物資

- ・衛生キット(石鹸やタオル、歯ブラシ等) 12,696 セット
- ・炊事用具 2,626 セット
- ・貯水容器(10～20 リットル) 46,214 個
- ・浄水剤 14,893 錠
- ・ビニル製防水シート 4,589 枚
- ・家族用テント 1,320 張
- ・緊急保健キット 67 セット など



83,000 人以上の子どもがはしかの予防接種を受け、10 万人以上が破傷風の予防接種を受けました。免疫力を高めるビタミンA錠剤も配布されました。

©UNICEF Indonesia/2006/Punomo



ユニセフは、いち早く学校を再開するために、臨時の学校用テントを 4,000 張配布し、さらに 10 万人分の教材セットやスポーツ道具等のレクリエーションキットも配られました。

©UNICEFIndonesia/2006/Estey



子どもたちが安心して遊べる場所として、子どもセンターが設置され、1500 人以上の子ども達が通っています。

©UNICEFIndonesia/2006/Estey

➤ 詳しくは <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/centraljava/> をご覧ください。

フィリピン地滑り緊急募金

フィリピン南東部の南レイテで降り続いた大雨のため、2006年2月17日に大規模な地滑りが発生しました。ユニセフは発生当日に、1万人分の基礎医薬品と医療器具3か月分を送りました。さらに、一週間後までに、ユニセフは被災地へ食器と台所用品700セット、貯水容器150個、子ども用のズボンとTシャツ300セットとおもちゃを送りました。基礎医薬品が入った緊急保健キットも被災地の保健センターへ送られたほか、避難所となっている小学校への大きなテントも送られました。



©UNICEF/Philippines



避難所では、フィリピンのユニセフ親善大使によるミニコンサートが開かれました。



孤児を対象としたアートセラピーや、教員を対象としたアートセラピー研修も支援しました

さらに、ユニセフは親と離れ離れになった子どもの保護や、被災地は人身売買の被害となる子どもと女性の出身や中継地として知られていたため、地域や子どもたち自身に対して子どもの人身売買の危険について注意を呼びかけました。また、校舎の再建の支援や、学用品の支援も行っています。

➤ 詳しくは http://www.unicef.or.jp/kinkyu/philippine/2006_0403.htm をご覧ください

パキスタン地震緊急募金

地震発生直後、ユニセフは毛布、冬物衣料、緊急保健キットなど、20万ドル(約2400万円)相当の支援物資をすぐさ



震災後の厳しい冬を乗りきるため、合計で82万枚の毛布、68万セットの冬用小物(雪用ブーツ、ジャケット、靴下、マフラー)、及び25万枚の掛け布団を、避難キャンプや物資の行き届きにくい地域に住む、もっとも弱い立場にいる子どもたちに届けました
©UNICEF/HQ05-1742 / Zaidi



5つの町で都市上水道が再建され、40万人の人々や安全な飲料水を使えるようになりました。農村部では、115の村で200の給水設備が修復され、175,000が安全な水を手に入れられるようになりました

© UNICEF/Zaidi/CP_0010



ユニセフは避難キャンプと被災したコミュニティに4,000のテントの学校を作りました。又、スクール・イン・ア・ボックス(ひとつで80人の児童が教育を受けられる教材セット)8,000セットを提供しました。多くの子どもたち一特に女の子は学校に通うのが初めてです。

© UNICEF/Zaidi/L_ED_0001

ま被災地へ届けました。さらに、避難所設置のため、500万枚のトタン板と50万枚近くのテントを配布しました。復興支援は長期的に続けてられています。2009年4月までに、ユニセフは500校の耐震性のある小学校、70の耐震性のある保健施設、1,000の給水設備を建設する予定です。さらに、小学校と中学校の約2万人の教員が研修を受け、50万人の子どもが就学する予定です。

➤ 詳しくは <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/pakistan/> をご覧ください

スマトラ沖地震・津波 緊急・復興募金

ユニセフは、被災した8カ国で2年間に480万人の人々を支援してきました。今後も3～5年にわたる長期的な支援活動が継続されます。



ユニセフは53ヶ所の保健施設の改築及び改修を支援し、病院や診療所など約6,100ヶ所に医療物資を配給しました。

又、マラリアの感染防止のために、100万人近くの子どもと女性に殺虫剤処理した蚊帳を提供しました。
(写真はスリランカの病院)

©UNICEF



ユニセフの支援で設置された給水設備により、100万人以上が安全な水を手に入れられるようになりました。このうちの25万人は学校に通う子どもたちです。

(写真はモルディブの淡水化装置)

© UNICEF Maldives/ 2006/Taylor



被災地に住む数十万人の子ども達が、新しく建設された36の耐久性校舎や145ある準耐久性校舎、修復工事を施した900の学校で勉強しています。また、子ども達が学校に通いつづけられるように、100万人以上の子どもに学用品を配布しました。

さらに、約40万人が、ユニセフの支援する心理・社会的ケアを目的とした活動に参加しています。(写真はインドネシアの小学校)

© UNICEF HQ06-1963/Estey

➤ 詳しくは <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/sumatra/> をご覧ください

生協の取り組み

2005年～2006年に取り組まれた主な緊急募金のご協力総額は以下の通りです。(2007年2月14日集計)

スマトラ沖地震・津波緊急募金	2億 6,836万 6,069円
スマトラ沖地震・津波復興支援募金	1億 2,846万 0,505円
パキスタン地震緊急募金	1億 3,014万 9,524円
ジャワ島地震緊急募金	1億 1,113万 5,924円
フィリピン地滑り緊急募金	707万 7,466円

→エフコープ
→鳥取県生協
→チラシ

緊急募金

ご協力のお願い

2005年6月3日(土)～2006年7月7日(金)

●募金の送付先: 被災国 日本ユニセフ協会

●募金はジャワ島中部地震の被災者へ送付して子どもや家族を支援するための(国連ユニセフ協会)が中心となり募金活動を行っています。

エフコープ販売店協賛 FCO-OP

組合員の皆様へ

『ジャワ島地震』緊急募金にご協力をお願いします。

2005年6月3日(土)～2006年7月7日(金)まで、ジャワ島中部地震の被災者へ送付して子どもや家族を支援するための(国連ユニセフ協会)が中心となり募金活動を行っています。

●募金の送付先: 被災国 日本ユニセフ協会

●募金はジャワ島中部地震の被災者へ送付して子どもや家族を支援するための(国連ユニセフ協会)が中心となり募金活動を行っています。

●募金の送付先: 被災国 日本ユニセフ協会

●募金はジャワ島中部地震の被災者へ送付して子どもや家族を支援するための(国連ユニセフ協会)が中心となり募金活動を行っています。



ペットボトル募金箱をレジ台に設置(いわて生協)

コープ・ユニセフ

スマトラ沖地震・津波

復興支援募金キャンペーン

被災地の子どもたちの笑顔の未来に、皆様からの支援をぜひご協力をお願いします。

●募金の送付先: 被災国 日本ユニセフ協会

●募金はジャワ島中部地震の被災者へ送付して子どもや家族を支援するための(国連ユニセフ協会)が中心となり募金活動を行っています。



緊急・復興支援の現場を視察
(スリランカスタディツアー)



災害時の緊急支援について考える
シンポジウム開催(福島・東京・兵庫)

全国の生協が取り組むキャンペーンとして実施した復興支援募金の共通チラシ

この国 どんな国 ケニア共和国の巻

遠くにキリマンジャロを望み、国立公園内のサファリでは たくさんの動物にであえる国ケニア。首都ナイロビにはビルが林立しインターネット・携帯電話といった通信産業の波が押し寄せているが、様々な事情から治安は急激に悪化している。一方 牛を命の源として国境をまたがるサバンナを移動して暮らす遊牧民。昔からのライフスタイルをほとんど変えずに生活している場所・人々も多い。



黒は国民を、赤は独立で流された尊い血を、緑は大地と天然資源を 白い線は平和と国民の団結を、中央紋章はマサイ族の盾と槍を表し自由と独立を象徴する。



乾燥地帯であるケニアの 80%以上はここ 3 年間深刻な干ばつの被害を受けてきました。しかし、エルニーニョの影響のより 2006 年 10 月は大雨が降り、そのため 11 月には洪水に見舞われました。11 月末の時点でケニア北東部や沿岸部が一番の被害をうけており、推定で 70 万人が大きな被害をうけています。干ばつによって多くの家畜を失った遊牧民は避難生活を余儀なくされています。

面積 53.3 万 k m² (日本の約 1.5 倍)

人口 3,430 万人 (世銀 2005 年)

首都 ナイロビ (スワヒリ語で さわやかな水)

住民 キクエ族 ルヒヤ族 カレンジン族 ルオ族など

言語 スワヒリ語 英語

こんにちは・ジャンボ

ゆっくり・ポレポレ ライオン・シンバ

宗教 伝統宗教 キリスト教 イスラム教

気候・風土

ナイロビ・内陸部で 1700m の高原にあるので年間平均気温 17 度 雨期と乾期がはっきりした サバンナ気候

モンバサ(沿岸地方)・高温多湿熱帯性気候 平均気温 26・3 度年間降水量 1000mm

北部・東部の辺境には広大な半砂漠地帯がひろがる
年間降水量 200mm 以下日中の暑さは厳しいが日が沈むと急速に冷え込む

歴史

ケニア北部から 最古の人類とみられる化石骨が発見されている。8 世紀ごろからアラブの貿易商人が移住し始め、東アフリカの象牙・金・奴隷をもとめて進出、交易の拠点とする。19 世紀後半にはヨーロッパが植民地化、イギリスの支配下となる。1963 年 独立。ケニヤッタ氏 初代大統領に就任。

★ケニアのドーナツ ～マンダジ(MAANDAZI)～

<材料>

小麦粉 500g

ベーキングパウダー 大さじ 1

砂糖 1/2 カップ

バター 大さじ 1

プレーンヨーグルト 2 カップ (牛乳でも可)

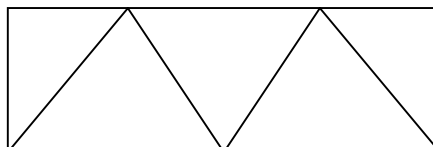
《作り方》

材料を全てまぜあわせ、30 分ほどねかす

打ち粉をひいた台にうすく (耳たぶくらい) のばして、右のように三角形に切る

揚げたらできあがり！

サモサのような形のドーナツです



©UNICEF/HQ06-0176/Kamber

干ばつ被災者の
避難民
キャンプ



©UNICEF/HQ06-0171/Kamber

栄養療法センター兼
診療所
に
来
て
い
る
子
ど
も



©UNICEF/HQ06-0174/Kamber

物資を持って診療所
を出る
家族



世界の子ども達は今

<ケニア>

(文) 松本真弓

(絵) 蛭沢素子





岩手では「ユニセフチャリティコンサート2006」を開催しました

2006年12月9日、「ユニセフチャリティコンサート2006」が、盛岡市内のキャラホールで開催されました。このコンサートは、いわて生協・岩手県学校生協・盛岡大学生生協・盛岡医療生協などのユニセフ岩手県支部のボランティアに支えられ、準備・運営されたものです。550名の参加者があり、多彩で豊かな合唱や演奏に魅了されました。

中学生8名によるハンドベル、キャラホール少年少女合唱団95名、ニンファとプレイズパワー30名と多彩な出演者により、矢幅ニンファさんの作曲した「ユニセフの歌」も披露されました。

ニンファさんは、フィリピンから音楽家として来日して5年目、盛岡に住んでいます。日本の教え子といっしょに音楽活動を進めており、昨年9月のユニセフリーダー研修交流会にも参加されました。

ユニセフインフォメーションでは、「ユニセフと地球のともだち」のビデオ上映と、(財)日本ユニセフ協会のキャラバン隊が10月に訪問した盛岡市内の小学校の6年生3名から、「これまで募金を通じてユニセフの活動に協力してきたつもりだったが、水の大切さ、自分のことだけを考えるだけでなく、相手のことを考えて行動すること、身近なともだちのことを考え行動することが、ユニセフの活動につながると思う」「地球に住む私たちのまだ見ぬ友達が幸せに



暮らせるように、ユニセフの考えを大事にし、行動していきたい」と発表がありました。

* 矢幅ニンファさんの紹介記事が、ぽむぽむ通信 34号に掲載されています

取り組みました！ ユニセフ ハンド・イン・ハンド

暖かい心を感じました 一生協ひろしま 南エリアー



サンタさんも登場！

当日コープ焼山店で実施されたもちつきイベントに合わせて、募金活動やユニセフカード頒布、カレンダー募金を行いました。店から出てくるときに、あらかじめお金を手にして入れてくれる人、荷物で手がふさがっているのに「ポケットのお財布からとってもいいよ」と言ってくれた人。初めての試みでしたが、日頃、組合員同士のつながりが強いせいか、とても暖かい心を感じる募金活動になりました。これからも続けたいです。

🍀 親子で声をあわせて —おかやまコープ—

県内のコープ全店舗をはじめとする計13ヶ所で、ボランティアや職員150名が参加しました。実行委員や運営委員さんの子ども達も元気な声で募金を呼びかけ、親子で取り組むハンド・イン・ハンドが定着しています。各会場では、さまざまな工夫がこらされました。

- 募金活動の前に、ユニセフすごろくなどを通じた学習をして、参加者の理解を深めました。
- 事前にメッセージカードやオリジナル募金箱の呼びかけをし、当日それらをもって会場に足を運んでもらいました。実行委員会で募金箱用ラベルを用意し、各種委員会や職員にも協力を呼びかけました。
- 地域会議メンバーやユニセフ実行委員によるハンドベル演奏や、トナカイの着ぐるみやパペット、サンタの帽子、エプロンで雰囲気作りをしました。クリスマスのBGMを流した店舗も。
- 地元のピアノ教室の子どもたち、オカリナクラブ、職員に出演を呼びかけて、店舗内に設けた会場でミニコンサートを開きました。
- サンタとの写真撮影や、水がめ運び体験、手製ユニセフパネルの展示、経口補水塩試飲も実施。



ユニセフすごろく



アイデアあふれる手づくり募金箱



子ども達によるミニコンサート

🍀 高校生も参加 —みかわ市民生協—

4地区の地域リーダーさんが中心となって企画しました。8月から手編みの帽子を作って1点500円の募金にあてた地区も。それだけで3万円以上の募金になりました。

サークル「あおいくま」による、コープ店舗での募金活動は今年で2年目。去年に引き続きコープ岩田店での活動には高校生がボランティアで参加してくれました。生徒達がバルーンで動物を作って飾り付けをして、大きな声で募金をよびかけながら、募金をしていただいた方にチラシを手渡していました。

🍀 全県で取り組み —栃木県生協連—

県連が窓口となって県内の生協へ呼びかけ、売店への募金箱設置、職場での募金呼びかけ、街頭募金、生協まつりでの募金活動などそれぞれの方法で取り組みました。栃木県学校生協では、生協強化月刊取り組みの「ひとり一品以上利用拡大キャンペーン」供給額の1%を募金にあてました。

🍀 BGMを流しながら…

—コープあいづ・ユニセフ平和委員会—

当日は暖かい天候に恵まれ、ユニセフ協会福島県支部のうたをBGMで流しながら、店舗で楽しく活動を行いました。他のイベントと重なったものの8名が参加し、昨年を上回る募金を協力いただきました。

✪ 毎年参加者が増えています ―山形県生協連―

5 地域 7 会場で実施され、61 名が参加しました。今年は実施箇所、参加者、募金額とも前年を上回り、ハンド・イン・ハンドがユニセフ活動の大きな柱として定着してきました。

〈新庄〉「正月商品試食回・班長つどい」の場での訴えとなりました。

〈酒田〉2 店舗で 11 名の組合員が参加して活動しました。チラシを配ったり、店内放送で何度も呼びかけたりしました。

〈西置賜〉大勢の人が集まる映画の上映会場での活動を計画しました。上映開始前だけの予定でしたが、「帰りに入れるから」といわれ、上映終了後も募金のお願いをしました。

〈鶴岡〉地域理事会で参加を募り、8 名の参加者で行動しました。当日は高校生のライブイベントが会場 2F のホールで行われ、イマドキの若者も多く立ち寄って募金してくれました。1 円玉貯金箱をもって募金してくれる人もいました。

〈山形〉今回初めて小学生と高校生のボランティアが街頭での募金に参加しました。その効果か、男の子、特に高校生が募金してくれました。県連が作成した横断幕やプラカードが目立ち、通行者も安心して募金に協力いただけたようです。



✪ 自然に大きな声 ―コープぎふ―

コープ店舗などを中心に計 14 ヶ所で、生協関係者や地元の小中高生ら計 203 人が、募金への協力を呼びかけました。ある店舗では、ドリンク・試食コーナーと一緒にカード・グッズ頒布と募金活動を行ったところ、はがき等をゆっくり手にとって見てもらうことができ、買ってくださる方がたくさんいました。また、募金活動に参加した中学生からは、「ユニセフの募金活動は、初めてだったので、少し不安だったけど、自然に大きな声が出せたので良かった。」などの感想が寄せられました。また、募金活動後に、参加者同士の交流の場を設けた会場もありました。店頭などのほか、12 月の 2 回は通年で受け付けている電卓・OCR 募金も「ハンド・イン・ハンド募金」としてチラシ等を通じて呼びかけました。



初めてのハンド・イン・ハンド
(日立造船因島生協)

🌱 おこづかいから募金 ―コープぐんまのユニセフの会―



昨年の12月23日に「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」をリセロ藤岡の店頭で取り組みました。

子ども2名を含む7名が募金活動に参加しました。赤いサンタ帽子で雰囲気盛り上げて、募金を呼びかけました。自転車来店した3人の小学生が、ユニセフのパネルを見ておこづかいの中から募金してくれたり、多くの子ども達が募金に協力してくれました。そして、約2時間の取り組みにより、13000円の募金が集まりました。

参加者からは、「やって良かった。来年もハンド・イン・ハンド募金をやりたいね。」という感想が寄せられました。

🌱 小学生の心優しい気持ちに接して ―ちばコープ―

8月のユニセフリーダー研修・交流会に参加したメンバーが中心となり、ハンド・イン・ハンドを5ヶ所で実施しました。

クリスマス前で、サンタの装いやトラの着ぐるみなどで、店舗の賑わいづくりになりました。カードやグッズの頒布も同時に行いましたが、そこではバルーンプレゼントもしました。横断幕やユニセフの展示パネルを掲げることによって、何をしているかわかりやすくアピールしました。又、募金終了後には、店舗に報告の掲示もしました。



学校でもユニセフのことが話されていることもあって、小学生の反応がよく「あ！ユニセフだ」と親に募金を促したり、照れくさそうに募金をしてくれたりと、心優しい子どもと接することができうれしかったです。

「ユニセフ募金お願いします」という言葉のほかに、子どもでも覚えて言えるような短い呼びかけを考えて発信すると、もっとお互いに理解しあえるのではと思いました。

🌱 寒い中で頑張りました ―コープあおもり―

今年度ユニセフのハンド・イン・ハンドとしての街頭募金に取り組んできました。昨年7月、弘前市内のコープあおもりの店舗での街頭募金をスタートとして、12月の下北の百貨店前での募金活動まで、6回の街頭募金に取り組みました。12月3日には、折から吹雪の中で、道行く人に募金を呼びかけました。何人かの人が天気の悪く、足を止めて募金してくれたときは、ものすごく嬉しくて、身体は冷え切っていたけど、心はホカホカになりました。この間の募金の合計は、56,626円になりました。



折からの吹雪の中で、募金を訴えました

🌱 募金箱ひとつひとつに積もる気持ち -さいたまコープ-

エリア会が主催し、ユニセフグループと協力して駅や店舗など 12 ヶ所で募金活動を実施し、計 136 人（大人 100 人、子ども 36 人）が参加しました。各会場では、募金者に折り紙で作ったサンタクロースをプレゼントしたり、ミュージックベルの演奏を取り入れたり、事前に手作りの紙芝居を使ってユニセフについてのミニ学習会を開いたりしました。クリスマスツリーを用意して、募金協力者にリボンをつけてもらったお店もありました。募金して下さった方の中には、子ども達の募金箱ひとつひとつにお金を入れてくれる人、さいたまコープ東北地区ニュース（新撰組）を見て募金を届けてくれた人もいました。

医療生協のスリランカスタディツアーの報告

日本の医療生協では、2004 年のスマトラ沖地震・津波により大きな被害を受けたスリランカの医療生協に対して、医師の派遣をはじめ医療器具・医薬品などの提供で復興を支援するとともに、人材交流を行ってきました。全国の生協に呼びかけた支援募金は約 1,000 万円を超えました。

今回の「医療スタディツアー」は、医学・薬学・福祉・看護などを学ぶ医学生や医療関係者が、1 年半を経過したスリランカの復興の様子や今後何が必要か、何が自分たちにできるかなどを考えてもらうことを目的に実施したもので、2006 年 8 月 19 日から 28 日までの 10 日間の日程で、6 名の学生と日本生協連医療部会のスタッフ 1 名、神戸協同病院の医師 1 名の合計 8 人が参加しました。

一行は、首都コロンボや被災の大きかったゴールを中心に、被災から立ち直った現地、現地医療生協と看護学校、現地の NGO や UNICEF など国際組織の活動現場の視察とスタッフとの交流、遺跡見学などを行いました。参加した学生たちは、日本では体験できない現地の様子や海外で活動するスタッフたちとの交流、スリランカの医療生協と医学生との交

流などの貴重な体験をお土産に全員無事に帰国しました。

参加した学生たちからは、「現地の人たちとより身近に接することで相互理解を深められた」「想像していた被災地というより見事に復興している様子に感動した」「日本では経験できないような現場に触れ、現地の人とコミュニケーションを図ることでこんなに多くのことをすべて、満足感しました」「このツアーに参加し、今後自分がなにをしたらよいか、何を医学の中で学んだらいいのかが見えてきたと実感した」などの感想が寄せられました。



（レイアウト）
尾澤結花

ユニセフの支援する保健施設を見学しました

ぽむぽむ広場

☆ぽむぽむ通信の通算 35 号をお届けします。全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。また、各地の活動の参考になるような取り組みのご案内も行っています。☆全国の活動事例や、ぽむぽむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。
☆次号は、6 月 15 日発行です。お楽しみに！

ユニセフ*コープネットワーク
ぽむ・ぽむ通信

No.35 2007 年 3 月 15 日発行

編集 グループ ぽむ・ぽむ

スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・北村

イラスト／蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部
〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>